

令和元年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第1講 開講式、オリエンテーション、交流会

講師及び担当：名和田学長、山路コーディネーター、藤村（講師兼担当）

日時：令和元年6月1日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどりーむ）

参加者 5期生（18）、学長、コーディネーター、ナビゲーター（5）、

50名

緑区社会福祉協議会（2）、都筑区役所（2）、サブナビゲーター（3）

サポーター（9）、みどりーむ（4）、事務局（2）、スペシャルゲスト（3）

●学習目標

1. スクールの開講の主旨を理解する。
2. 全7講の講座の流れと内容を理解する
3. 横浜市における市民活動の事例を知る。
4. 健康と地域活動の有効性を理解する。
5. 新しい仲間との交流を深める。



●内容

1. 開講の基調講演「地域活動・市民活動への誘い」

～横浜の豊かな市民社会にあなたも参画しよう～

◇自治会、地区別計画、助成金等の活動の基礎的な知識の習得

◇行政との協働による具体的な市民活動の事例説明

2. 講座「健康寿命と地域活動の仕方」

◇健康長寿と地域活動との有効性について実例を交えて説明

◇地域活動の仕方や具体的な活動分野やテーマを紹介し、
夢プラン策定の糸口を提示

3. オリエンテーション

◇全7講の全体の流れと、目的や学び方、「夢プラン」策定の手順について説明

4. 交流会

◇5期生の自己紹介を兼ねた交流会を実施



オリエンテーション



子どもを全員で見守り



修了生の司会による交流会



5期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



◆講座の中で講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」をご記入ください。

- 健康寿命を延ばすということにおいては参考になった。食事や運動のほかに地域での関わりが健康に良いということが認識できた。今後の講座を通して、自分の思いやプランが形になっていくか不安な気持ちがある。
- 横浜市の自治会活動が比較的活発であること。地域福祉保健計画の地区別計画という言葉を初めて聞いたので知りたいなと思った。
- 人のつながり、参加者の人となりや思いは、刺激になった。
- 地域福祉保健計画、NPOの立ち上げ等今まで知らなかった情報が役にたった。公共の居場所作りにも興味が出てきた。
- みなさんがいろいろな思いを抱いて参加する気持ちがよく伝わった。自分でできることや社会に何かできることを探したい。今後の講義でたくさん学びたい。

◆交流会について感想があればご記入ください。

- 「地域をよくしたい」、「地域のために働きたい」という熱い気持ちを持っている人が多く参加されていると思った。私も参加している人たちも刺激を受けながら今後活動していきたいと思う。
- OB、OG方々のあたたかい運営にとっても感動した。スタッフがとても楽しそうなことが人を引き付ける理由だと思った。
- ざっくばらんとした話し合いの交流がよかった。ただ、時間が足りないと思った。
- 様々な境遇のみなさんと縁があって会うことができた。学び合い、つながりを築いていきたいと思う。
- 活発な地域づくりというキーワードで様々な方と一緒できる機会を与えてもらい感謝。
- いかになごませるか考えた司会がよかった。幅広いメンバーで今から楽しみ。



コメント欄（担当ナビゲーター：藤村）

- 満足度は92%（17名回答）で概ね好評。
<最低60%（まだ少し不安がある） 最高150%（やる気満々）>
- 交流会の時間がオーバーしたが、熱意の現れと思える反面、時間管理の甘さが残った。
- やりたい事が見えている人が多いと感じた。しかし、やりたい事が見えず不安になっている人もいるので、この受講生の不安を早期に払拭することが重要と感じている。
- 5期生は「夢プランの内容が不明」な事が気懸りと推察。この点を第2講でフォローして頂きたい。

令和元年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第2講 修了生活動発表、資源に気づこう

講師及び担当：山路コーディネーター、岡部、後藤、森

日時：令和元年6月22日(土) 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）

参加者 5期生（15）、発表者（修了生3）、コーディネーター、ナビゲーター（4）、
39名 都筑区役所（1）、サブナビゲーター（3）、サポーター（6）、事務局（2）、
スペシャルゲスト（4）

●学習目標

1. 5期生に近い存在の修了生(4期生)の活動発表を聞き、今後どう生かしていくかを学ぶ。
2. 「個人の資源」「地域の資源」に気づくことで、それぞれの夢プラン作成のヒントを学ぶ。

●内容

1. 修了生（4期生）の話を聞こう：活動発表

◆高野 雅代さん：鍼灸師としての資格を活かし、地域貢献をしたいと「ひと・まち」



スクールを受講。知的障害者（ダウン症）、高齢者、親子支援を中心に地域の人たちが健康に過ごすために東洋医学の知恵を生活に取り入れる「夢プラン」を作成。現在の活動：「753市」（なごみ市）毎月第3日曜日「セルフケアで健康になるお灸体験」を開催。ハーモニーみどりで半年に1～2回子育て支援。「みどり地域活動ホーム・あおぞら」おもちゃ文庫で2ヶ月に一度子育て支援を行っている。

5期生へのメッセージ：「何でも受け入れていくようにしてほしい」

◆前田 實さん：「夢プラン」は公園を利用した「青空遊人クラブ」を作る。“全ての活動は青空の下で行う”会費は集めない、会員も集めない、会則も作らないとの思いを掲げ「団地の活性化と地域住民との交流を図る。具体的にはラジ体操を開催し、①住民の健康作り②75歳以上の一人暮らし高齢者の見守り③地域の交流を図る④ボランティア活動を目的としている。参加の対象は、団地の住民と恩田川を散策する人達。「夢プラン」当初の目標は20名参加としたが約半年で達成！現在は、50名参加を目指して活動中。これまで参加者が最も多かったのは28名。夢は100名参加。



5期生へのメッセージ：「自分の出来ること一つか二つにして幅を広げないこと」

◆井山 恵理子さん：三児の母（11歳、3歳、1歳）地域活動に興味があり、育休中に考える時間が増え、たまたまスクールの応募要項を目にして応募。自分が暮らす街にサードプレイスを作りたい、子育てをもっと楽しみたい、他の世代との関わりを持てる場がほしいとカフェを「夢プラン」とした。しかし、物件の話が進まず保留となり、自宅での居場所作りに変更。スクールで学んだつながりを求め、積極的に社協や地元自治会などの活動に参加。現在は月1回自宅を開放してイベントを開催中。



5期生へのメッセージ：「自身がやりたいという思いを継続してほしい。」

2. 自分の資源に気づこう：コーディネーター、ナビゲーター、サブナビゲーター等

「好きなこと（趣味）」、「得意なことまたは得意だったこと」をポスト it に記入し、模造紙に貼り発表。山路コーディネーター、ナビゲーターとサブナビの野場さんが見本を示し、午後からの5期生のワークショップへつなげる時間とした。

3. 自分の資源に気づこう：5期生ワークショップ

「好きなこと（趣味）」、「得意なことまたは得意だったこと」、をポスト it に記入し、模造紙に貼り2分の持ち時間で発表した。自身の資源とみんなの資源に気づき、今後の「夢プラン」作成の一步とした。



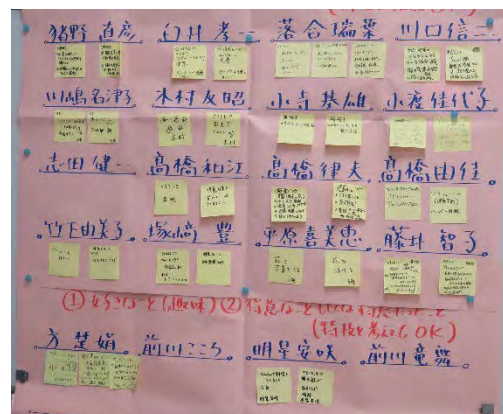
5期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆今回の講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」、感想をご記入ください。

- ・「自分の資源に気づこう」では、参加者ひとりひとりが様々な趣味や特技があることが分かり、「夢プラン」のかけらが多く集まっていると思った。
- ・地域活動に参加していくには、最初の一步を踏み出すちょっとした勇気とハードルを上げすぎず、できることから取り組む重要性を確認できた事は良かった。
- ・4期生の発表を聞いて、みなさんが「思ったことをやってみます」と一步を踏み出したことに勇気づけられた。
- ・ゴールは身近で小さいところからはじめた方が長続きしそうな感じがした。
- ・修了生の具体的な活動内容を聞くことができイメージがつかめてきた。
- ・自分の資源を見つめなおすことで、今の自分にできることを見直すことができよかったと思う。
- ・4期生の方々の活動がどのように行われ、実現されているのか勉強になりました。自身の想いがあっても実現に向けてまだまだ行動が足りていないことに気づかされた。また、仲間づくり、コミュニケーションの大切さも感じた。

コメント欄：担当ナビゲーター(岡部さん)

- ・修了生3名の活動発表が、良くまとまっていたすばらしかった。
- ・夢プラン作りに向かって、「自分の資源に気づこう」や「他人の資源を知ろう」という学習がとても楽しく実施でき、これからの「夢プランづくり」に役立つのではと感じた。



令和元年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第3講 「コミュニティ今昔」「緑区のまちづくり」について他

講師及び担当 相澤雅雄氏、高西区政推進課係長、山路コーディネーター、金子

日時：令和元年7月13日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどりーむ）

参加者 5期生（14）、講師、コーディネーター、ナビゲーター（5）、サブナビゲーター（3）、

34名

サポーター（6）、区政推進課、事務局（3）

●学習目標

- ① コミュニティ今昔：十日市場、中山地区における風俗習慣や掟、稲荷講等の民間信仰によって築かれてきた地域の人と、人との繋がりを学び、コミュニティの「昔と今」について探求した。
- ② 緑区のまちづくり：山下地区において4月2日より運行されている「ささえあいバス」は、地域住民の提案が発端となって実現したが、数々の問題を抱えて運営されている。現状を維持していくために地域住民がどのように汗をかいているかを知った。
- ③ ムラの軸とトシの軸：緑区には古くから東西に流れ・走る、鶴見川と横浜線があり、南北には246号線と田園都市線が通っている。ムラの時代は人・物の流れは東西間が主流であったが、時代を経てトシ化に大きく貢献したのは南北間の流れだった。このように地理的条件と人工的な条件によって街が形成されてきた事を再認識した。

●内 容

講義1. 近世初期における現・緑区の世帯数、人口の数値から職業、習慣等の住民生活から講義は進められた。当時の産業は農業が主体であり、農民は一経営単位で営まれた、自給自足であった社会に生まれた独自の掟、先祖供養や民間信仰を通じて、村人のつながりが出来てきた経過を紹介。住民の生活における掟には姓・名主等の世襲制度等があるが、これは地域社会維持の為に取られたものであって、より強い仲間意識につながっていた例や、中でも庚申塚に刻まれている「三猿」についての説明は、受講生の関心を誘っていた。また、寺子屋の成り立ちにも触れ、教育の必要性を求めた時代を学んだ。永い時代に渡って信仰されてきた理由や、こうした信仰によって地域内の結びつきは一段と強くなってきて「コミュニティ」は生まれてくるものであると、話を結んだ。

講義2. どの地域でも高齢化が進み、それに拍車をかけるような少子化による町の衰退は緑区においても例外ではない。中でも山下地区は自然条件や道路整備の遅れによって交通の便が悪く、子供たちの通学や年配者の通院・買い物等に大きな問題となっていた。

そこで山下地区独自でバスを走らせる計画が立ち上がり、「山下地区ささえあいバス」を運行するが決定された、しかし運行開始までには様々な問題を解決しなければならないため、行政・地域・運行会社を始め、他の関係者が何度も集まって詳細な打ち合わせを行なって、本年の4月2日から運行が開始された。しかし、順調に進んでいる状態ではなく、現状のルートでいいのか、運行回数はどうする、ボランティア運転手の確保等々、様々な問題を抱えながら走っているのが実情。今後の進め方等は関係者だけに任せるのではなく、住民が「我がこととして行動に移す」

ことが重要であり、継続につながると紹介した。

講義3. 「ムラの軸と都市の軸」と題して、丘陵・台地部における村時代の構成、自然軸と都市化軸のクロス構造、緑区のまちの現況構成図を紹介。また、南区や旭区、小学校の市民活動を紹介し、5期生の「夢プラン」作成へのヒントを伝えた。



5期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

◆講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいことをご記入ください。

- 30年、十日市場に住んで、今回はじめて講義をお聞きして、納得したこと、もっと知りたいことがあり、今後につなげたいと思った。
- 横浜の歴史と地形が一体となって現在に至る姿になったことを教えていただき参考になった。古墳があることにも驚いたが、戦国、江戸から現在に至る横浜の歴史の中で、かつての倫理観、常識、コミュニケーションが変化、または喪失してきたこともわかった。
- 相澤氏の講義は、大変興味深く勉強になった。特に私は江戸時代に興味があるので、当時のこの地区の歴史がよくわかった。
- 庚申塔を見た時の歴史的な位置付けがよくわかった。



◆今回の講座に関して「より勉強したいこと」をご記入ください。

- 緑区の歴史はかなり勉強することができた。
- 過去の歴史を否定はしませんが、現在のコミュニティの在り方を勉強したい。
- コミュニティの活性化をより勉強したい。
- 過去の人のつながりの仕方を参考にしながら、これからの時代に合致した付き合い方を模索していきたいと思う。
- いかにして地域の人に地域活動に参加してもらえるか、また、関心を持ってもらえるか勉強したいと思った。

コメント欄（担当ナビゲーター：金子）

緑区に残る習慣や信仰、人口による地形の変貌、現状の様子を3氏によって話されたが、それぞれが専門的になることなく、身近な事例を取り上げてわかりやすく紹介。受講者もうなずきながら聞いている場面が数多くあった。

第3講を機会に、緑区が好きになり、もっと知りたいと思う気持ちになり、この講座の目的である「夢プラン」作りに大きく反映することを確信する。

5期生は、はじめて相澤氏の緑区の歴史講座を聞く人も多く、関心の高いものとなった。

令和元年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第4講 「夢プラン」を作ろうワークショップ

講師及び担当：竹迫講師、山路コーディネーター、藤村

日時：令和元年8月3日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）

参加者 5期生（15）、講師、コーディネーター、ナビゲーター（4）、

36名

サブナビゲーター（2）サポーター（7）、事務局（3）、スペシャルゲスト（3）

●学習目標

1. 「夢プラン」作成のワークショップ
 - ①「夢プラン」作成の手法を学ぶ。
 - ②自分の考えを纏め、第三者に説明し理解して貰う。
 - ③ファシリテーショングラフィック技術で議論を深めると同時に共感や相互理解を深める。



●内容

1. 夢プラン作成の第一歩として、「自分のやりたい事」「やりたい事は地域のどんな課題解決につながるのか」を三人一組で話し合いをした。
2. 「やりたい事」と「地域の課題」を A3 用紙に記述し各自が発表した。
3. 山路コーディネーターのファシリテーショングラフィックで上記②を「見える化」にする事で参加者同士の議論を深め、内容を具体的かつ明確にする事が出来た。
4. 自分の「やりたい事」のコンセプトを図解にし、三人一組とナビゲーターで図解の内容のブラッシュアップを行った。



5期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



◆講座の中で講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」をご記入ください。

- ぼんやりといていた自分のやりたいことを発表し、サポーターや同じテーブルになった方々にテコ入れをしていただくことで、具体的になっていく感覚が印象に残った。アイスブレイクの「誰でもピカソ」も面白かった。
- 山路コーディネーターが5期生の発表のことをすぐにまとめ、用紙に書き込んでいくことに感動した。
- 自分の考えていたことを具現化できそうだと思った。付せんを先輩方がかわいい形に切ってください、ありがとうございました。
- 自分の活動の足りていないところを客観視していただき納得することが多々あり勉強になった。常に俯瞰している視点は大事だと痛感した。自分の考えていることを具体的に視覚化することは大事だと感じた。

◆今回の講座に関して「より勉強したいこと」を記入ください。

- やりたいことをより良いものにするために、住んでいる地域に何があって、何が足りないかを調べ上げなくてはと思った。今ある資源、情報をフル活用するスキルが必要と思った。
- 人が次の行動をおこすためのきっかけは何か。
- 具体的な実践の方法（やり方）
- 交流を広げていく力を身につけたいと思う。

◆今回の講座について感想など自由にご記入ください。

- プランを作るプロセスを実践できることに自身の目的や考え方をブラッシュアップできて助かる。
- ワークが多い一方で、各ワークの作業時間が短いと感じた。



コメント欄（担当ナビゲーター：藤村）

- 最初は不安な様子の受講者も時間とともに、不安は解消されていく様子うかがえた。
- 山路コーディネーターのファシリテーショングラフィックの効果は絶大で、初期の夢プラン内容の客観性や講座の全体の一体感が向上できた。
- 昨年はミーティングスペースでマイクを使用しなかったのが指示などが徹底せず運営上に支障をきたしたが、今年度はマイクを使用し、さらにタイムキーパーを設けた結果、円滑な運営ができた。参加人数にもよるが大会議室を使用するのが望ましいと感じた。

令和元年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第5講 「夢プラン」を作ろうワークショップ

講師及び担当：竹迫講師、山路コーディネーター、藤村

日時：令和元年8月24日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどりーむ）

参加者 5期生（16）、講師、コーディネーター、ナビゲーター（5）、

35名

サブナビゲーター（3）サポーター（5）、事務局（2）、スペシャルゲスト（2）

●学習目標

1. 「夢プラン」作成のワークショップ最終講
 - ①自分の夢プランを第三者に判り易く理解してもらえ
「イメージ図」を作成する。
 - ②自分以外の夢プランを改善するためのアドバイスが
できるスキルを身に着ける。
 - ③夢プランの素案をつくる。



●内容

1. 第4講で作成したイメージ図や夢プランを発表し、アドバイスをもらう。
3～4人のグループで各自3分間で説明し、7分間でアドバイスを受ける。
2. ナビゲーターからのアドバイスをもらいながら夢プランを文章化していく。
3. 夢プランの素案を模造紙上に作成し、各自1分間の説明を行う。
4. 全受講者の模造紙（上記2）を会議室壁面に掲示し、全員で完成度を高めるため
にアドバイスを記載した付箋紙を張り付ける。



5期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



◆講座の中で講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」をご記入ください。

- 各自1分間で発表した後に、多くの人に付せて意見を書いてもらうのは、自分の発想を広げるうえで有効だと思った。
- 他者の話に耳を傾け、考えることで自分自身の気づきにつながった。
- イメージの具現化、見える化することの難しさを学んだ。短い時間で表現をし、相手に伝えるのは簡単ではないと思った。
- グループ討議を通して、まだまだ自分のプランの深堀が不足しているのを実感した。

◆今回の講座に関して「より勉強したいこと」を記入ください。

- 自分が伝えたいことを1分間で簡潔に人に伝えるのは難しいと思う。今後、1分間スピーチを勉強していきたい。
- プランの夢の部分と実際の活動展開をする部分とのギャップがなかなか解消できないことを痛感した。
- 伝えること、伝わること、共感することの大切さを学びたい。
- サロン、カフェ、たまり場等いろいろあるが、どんな人の利用を対象としているのか（高齢者、障害者、趣味的なものか）を実例として知りたいと思った。

◆今回の講座について感想など自由にご記入ください。

- 「見える化」と「相手に伝える」ことの大変さを勉強できたのがよかった。
- この講座が自分の「何になるのか」を自分で修正しながらブラッシュアップしていきたい。
- 壮大なプラン内容になった。何から始めたらいいのか悩む。3人で取り組めたらいいなと思う。
- 竹迫さんの講義が受けて、たいへん勉強になった。また、山路コーディネーターの市民活動への言葉はいつも「目からうろこ」と感じている。



コメント欄（担当ナビゲーター：藤村）

- グループ分けは「類似のテーマ」で行った。その結果、興味や課題が共通となったので論議も活発なものとなった。
- 今回、学んだ自分の考えを視覚的に「まとめ」て、限られた時間で説明して相手に理解してもらえる手法は、助成金応募のプレゼンテーション等にも応用できる。これを個人の資源として活用する事に期待したい。
- ミーティングスペースに2グループ、大会議室に3グループと分散してワークショップを実施した。隣接した他グループからの声が気にならず、話し合いに集中できたと思う。

令和元年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第6講 東本郷地区を歩く（フィールドワーク）

講師及び担当：新名サポーター、緑区社会福祉協議会、金子、田中

日時：令和元年9月14日（土） 場所：東本郷周辺

参加者 5期生（9）、コーディネーター、緑区社会福祉協議会、ナビゲーター（5）、
31名 サブナビゲーター（3）サポーター（5）、事務局（3）、スペシャルゲスト（4）

●学習目標

東本郷は、各自治会、各団体それぞれの特徴ある活動と連携しながら連合自治会がまちづくりを推進している。その活動の原動力を連合自治会長、地区社協、地域ケアプラザから話を聞いた。また、街に残る歴史に触れ、夢プランのヒントとした。



●内容

1. 東本郷のまちづくりと現地調査（東本郷連合自治会の名取会長、長村館長）

- JR 鴨居駅を出発し、緑区遺産「東本郷第一公園」で富士山の不思議さに感動。その後、大手の会社が開発した、東本郷の街を歩いた。整然とした住宅街には信号機がない。また、コミュニティーバスが走る状況について学んだ。この地は、古くからある本郷神社付近の16軒の集落を中心に発展してきたという歴史も学んだ。名取連合自治会長は、バスの延伸での賛否、盆踊りなど運営に苦労しながら今があると伝えた。
- 東本郷コミュニティハウスには、多くの活動団体が登録していることや、養護学校との交流や放課後キッズなども行われているという説明を受けた。

2. 社会福祉協議会とケアプラザの活動内容（東本郷地区社協会長、地域ケアプラザ所長）

- 緑区社会福祉協議会の事業説明の後、東本郷地区社会福祉協議会によるボランティアセンターの運営や送迎、家事支援活動、ホームページ開設などの支えあいの活動内容の説明があった。
- 東本郷地域ケアプラザは、指定管理者で健康や福祉の専門家が配置され、各団体の会議、専門的なサポート、各層が参加する自主事業により、「顔の見える関係」「思いの共有」で地域を引っ張っていきたいと説明があった。
- みどり養護学校、東耕地遺跡、本郷神社、庚申塔等を巡り、説明を聞きながら

街の歴史を体感した。(田中、金子ナビゲーター、新名サポーター)

5期生の「学びのふりかえり」より(抜粋)



◆講座の中で講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」をご記入ください。

- 東本郷地区のフィールドワークにおいて全く知らない町を歩くことで、五感が刺激された。
- 東本郷地区連合自治会長の話は、博学で面白かった。社協、地区社協、ケアプラザのお話は、参考になった。
- もともとの地形に影響を受けて、街ができていることや、谷戸がどこにあったかがよく見るとわかるのが面白かった。
- 実際に自分の目で現地を見ることの大切さを実感した。三現主義で緑区のいろいろなところを、まず見て体感しようと思う。

◆今回の講座に関して「より勉強したいこと」を記入ください。

- 「緑区遺産」について学びたい。
- 緑区の各地域の生い立ちや歴史的な背景を幅広く勉強してみたい。それが今後の緑区活性化のヒントになるような気がする。

◆今回の講座について感想など自由にご記入ください。

- 今回のフィールドワークは東本郷地区の歴史や旧跡を知る上で参考になった。このフィールドワークを「これからの緑区の街づくり」にどう生かすかが課題であると思った。
- 地域福祉コーディネーターになりたいのでケアプラザの所長のお話を聞くことができたいい機会であった。



コメント欄(担当ナビゲーター:田中)

- 連合自治会が総括的に地域の活動団体を牽引していく苦勞ややりがいを知った。また、街の歴史、成り立ちの仕組みを知ることができたと思う。また健康福祉の活動団体が3つある事や地区センターとは違う小規模のコミュニティハウスの活動も知った。フィールドワークを通して、各施設の活動内容に触れる貴重な機会となった。

コメント欄(担当:緑区社会福祉協議会 松本)

- 今回の第6講は地域の地形や歴史を知る前半とその地域を支える取り組みとして地域のボランティアの立場から明田さん、支援機関の立場から瀬谷所長にお話をしていただいた。夢プラン実現に向けて、参考事例や相談先の情報が得られたのではないかと思います。スクールの受講生が、ナビゲーターやサブナビゲーターとしてサポート役になるという人の循環や他の期の受講生とつながる機会があるのは、みどり「ひと・まち」スクールの特徴でもあるとあらためて感じた。

令和元年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第7講 修了式・夢プラン発表会

講師及び担当：名和田学長、山路コーディネーター、担当：岡部、金子

日時：令和元年 11 月 2 日（土）（台風の影響で日程を変更）

参加者 5期生（11）、名和田学長、山路コーディネーター、緑区社会福祉協議会（2）
ナビゲーター（5）、サブナビゲーター（2）、サポーター（5）、事務局（3）
34名 スペシャルゲスト（受講生の子どもたち 4）

●学習目標

- ・6月からスタートしたみどり「ひと・まち」スクールの最終講は、5期生が作成した「プラン」を発表すること。
- ・学長、コーディネーター、ナビゲーターから講評を受け、市民活動のはじめの一步から次のステップを目指す。

●内容

修了式

- ・学長から修了証書（13名全員）及び皆勤賞（5名）を代表者への授与
- ・学長から、「発表した夢プランの実現に向けて頑張っていたいただき地域課題の解決に努力してほしい」との励ましの挨拶があった。
- ・続いて小野崎区長（欠席、岩岡課長代読）から「緑区の街を良くしようという取り組みがこんなに沢山あることがうれしく思う。これから仲間づくりや人の繋がり活動に励んでください」との挨拶があった。
- ・修了生答辞：代表者が「ひと・まちスクールを受講できた事への感謝を述べたあと「新治市民の森に隣接した自宅を活用して交流の場作りをしていきたい。また、緑区社会福祉協議会が推進する『お散歩カフェ』に手を挙げ活動をはじめた。」との言葉が述べられた。
- ・全員で記念撮影

「夢プラン発表会」

- ・参加した5期生への励ましとともに昨年の修了生（4期生）から1年後の「夢プラン」の進捗について報告があった。
 - ・5期生 11名の発表を行った。（欠席者は、夢プランの冊子にもとづき事務局で発表）スクリーンに夢プランの「図」を投影した。
 - ・学長より「専門性をもった地域課題が増えている。5期生の「夢プラン」は、いずれも時代になかったプランであると感じた。」との講評があった。
 - ・山路コーディネーターからは、「つながりの場を設けることの必要性がプランに反映されている。そのアイデアも多岐に渡っていると感じた。」と講評があった。
- 「夢プラン」発表のあと、懇親会を行い今後の「つながり」を約束して、第7講を終えた。

5期生のアンケートより（抜粋）



- ◆ みどり「ひと・まち」スクールへのご意見・ご感想・ご要望を自由にご記入ください。
- ・参加のきっかけは何気なく応募したものだったが、全7回参加できて勉強になった。今後、自治会活動に役立てたいと思う。
- ・良い気づきの場であったと思う。この経験を次にどう活かすかが課題。
- ・受講生の「学び」や「変化」が感じられるスクールだった。ていねいな講座づくりをありがとうございました。
- ・卒業（修了生）のみなさんの話をもっと聞きたかった。
- ・修了生の活動紹介や報告、実現までのプロセスを聞きたかった。
- ・全体的に講義の時間が足りなかった。
- ・今回の活動を（夢プラン）をどう次へ活かすかの方向付けが乏しいと感じた。
- ・「夢プラン」を作成し、自分が何を求めているかわかった。
- ・自分の棚卸をするための気づきとなった。さまざまな人と出会えた。
- ・「夢プラン」の実現性に向けたブラッシュアップにも触れてもらいたかった。
- ・地域活動参加へのハードルが低くなった印象がある。



コメント欄（担当ナビゲーター：岡部）

- ・修了式では、5期生が作成した「居場所づくり」や「自宅カフェ」「地域交流拠点作り」など素晴らしい夢プランが発表され、今後の実現に向けた成果が期待できるものとなった。